

体験型海外教育実地研究 第8学年 異文化理解

「Put your heart into the character! ~SHODO spirits~」

教育学研究科 学習科学専攻 カリキュラム開発専修 岡田 光 未

1 はじめに

私がこの体験型海外実地研究を受講した理由は、他国の教育現場を自分の目で見てみたかったからである。日本の教育を受けて育ち、現在も日本の教育の中に生きている私にとって、「教育」というものへのイメージはその範疇を超えることがない。そのような自分の現状から、日本の教育について考える新しい視点を得たいと思っていたところ、この講義の存在を知った。語学研修などで海外に行くことはできても、実際に小学校や中学校を訪問し、授業を行う機会はなかなかあるものではなく、とても貴重なものであると思い、受講を決意した。

2 実地研究の日程と概要

月日	曜	交通等	訪問地・用務等	宿泊地
4/24	水	渡航までの日程, パスポート, ESTA, 授業研究テーマ事例, 部屋割り		
5/15	水	授業研究テーマ案の交流・テーマの設定		
6/6	木	学習指導案の検討		
6/11	火	学習指導案の検討		
6/24	月	学習指導案(英語版)の検討		
7/1	月	学習指導案(英語版)の検討		
7/6	土	第9回学校間交流国際フォーラム		
7/7	日	ワークショップ: 学習指導案および教材・教具の検討		
7/22	月	保険説明(学習指導案の検討, 指導案の提出について)		
7/23	火	保険説明(学習指導案の検討, 指導案の提出について)		
8/26	月	準備状況確認, 報告書・教材集・発表会について, 渡航準備・関係書類提出		
9/9	月	最終事前打ち合わせ(準備状況, 準備物・集合時刻等の確認)		
9/14	土	広島ー成田 0755-0935 (NH-3236) 成田ーワシントン ダラス 1105-1040 (NH-2) ワシントン ダラスーローリー 1220-1329 (UA-4880) 空港ー(ウォーレン先生・ECU バス)→City Hotel & Bistro	アメリカ・ノースカロライナ州 City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 TEL(877)2712616 Greenville	
9/15	日	(ウォーレン先生・バス)	ミーティング, ホテルにて教材作り 各学校の先生方と事前打ち合わせ レセプションパーティ	Greenville 同上

9/16	月	City Hotel →C.M.Eppes (ウォーレン先生・バス)	学校訪問 (C.M.Eppes) ・教頭先生による学校案内 ・校長先生より学校についての説明 ・授業実践 (横山、岡田: Carter 先生のクラスで。計 70 分。) ・授業参観 (藤井: Betow 先生のクラスでマクドナルドのオリジナルメニューについての授業) iTeach、ECU 図書館等の訪問・見学 ECU の学生と共に夕食	Greenville 同上
9/17	火	City Hotel →C.M.Eppes (ウォーレン先生・バス)	学校訪問 (C.M.Eppes) ・校内見学、授業見学 ・学校アドバイザーの方と座談会	Greenville 同上
9/18	水	City Hotel → ECU (ウォーレン先生・ECU バス) ECU → ローリー (ECU バス)	午前 ECU の講義に参加 午後 ローリーへ移動 ・自然史博物館、North Carolina 州議事堂を見学	ノースカロライナ州 Clarion Hotel State Capital 320 Hillsborough Street Raleigh, NC 27603 TEL(919)8320501 Raleigh
9/19	木	徒歩で、Exploris M.S.へ	学校訪問(Exploris M.S.) 午後 ローリー市内見学 歴史博物館等を見学	Raleigh (同上)
9/20	金	ローリー→ワシントン ダラス 1021-1134 (UA-4887) (空港→ホテル間はタクシー)	ワシントンへ移動 アメリカ文化体験	Washington Plaza 10 Thomas Circle, Northwest, Washington,DC 20005-4176 TEL (202)8421300 Washington, DC
9/21	土	徒歩	アメリカ文化体験・Book Fair スミソニアン博物館見学	Washington DC(同上)
9/22 9/23	日 月	ワシントンダラス→成田 1220-1525 (NH-1) 成田→広島 1740-1915 (NH-3237)		

3 実地研究授業

3.1 単元名 第8学年 異文化理解「Put your heart into the character! ~SHODO spirits~」

3.2 事前準備

① 単元設定の理由

単元設定の理由の一つは、書道のように文字に気持ちを込めるという文化は日本独特のものではないかと考えたからである。書道は精神を集中させ、落ち着いた心持ちで字と向き合う姿

勢が求められる。気持ちを込めて文字を書くことで、より心のこもった伝わる文字や文章が書けることについて考えてもらい、書くことについて新しい見方を持ってもらいたかったからである。もう一つの理由は、私自身書道が好きだということである。純粋に筆で楽しく文字を書くという体験をしてもらいたかったということもあり、以上の理由を踏まえて単元を設定した。

② 準備したこと

授業準備では、説明の時間をなるべく少なくし、実演して視覚的に理解してもらえるように工夫を行った。また、実際に生徒が文字を書くときに、自分の好きな漢字を選べるように、英訳の意味を付けた手本を用意し、選択肢も豊富にした。

使う道具については、本来の書道セットを用いたかったが、30セットということで運搬できないことや初めて書道をするという生徒への配慮、費用面等の様々な点を考慮して適切なものを用意した。

3.3 学習指導案

Lesson Title : Put your heart into the character! ~SHODO spirits~

Lesson Author : Mitsumi Okada

Date : September 16th, 2013

Grade Level : 8th grade

Subject : Culture

Description : In this class, students will learn about “SHODO-Japanese Calligraphy”.

And they will try to do SHODO, and then, they will be able to get some new thoughts about “writing characters”.

Objectives : As a result of this activity, it will be possible for children to

- 1 Deepen their thoughts about writing characters.
- 2 Learn about SHODO - Japanese calligraphy - spirit.
- 3 Enjoy writing characters with the writing brushes and Indian ink.

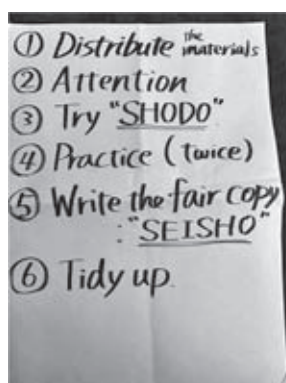
Teaching process :

Activity	Instruction of teacher	Materials
1. Learn about “SHODO”.	1. Show some works of SHODO, and explain the attitudes toward SHODO and rules of it. (explain clearly about the spirit of SHODO, the attitude which should be needed in it, and “the fair copy (SEISHO)”)	Some works of SHODO
2. Learn how to use the writing brush.	2. Explain the basic skills of using the brush. >to fix the tip of a writing brush,	Writing brushes HANSHI(the paper for SHODO)

	>to hold the suitable amount of Indian ink in the brush, >not to write with the loose brush and write carefully, >to be careful not to stain your or others' clothes.	Kits of SHODO
3. Practice the basic ways of using the brush.	3. Tell children to practice writing some horizontal lines, some vertical lines, some circles, and let students capture the sense of the suitable amount of the ink and how to move the brush on the paper.	
4. Practice one's own character for several times.	4. Show various Chinese Characters, let each student choose one of them, watch around and give some advice.	Some examples of Chinese Characters
5. Write the fair copy," SEISHO".	5. Distribute the paper for the fair copy.	Some square pieces of high-quality paperboard for the fair copy
6. Enjoy seeing their works each other.	6. Display their works on the board, and Let them see their works each other.	
7. Deepen their thoughts about writing characters.	7. Ask them what they felt, noticed and their impressions about writing, and deepen their thoughts about writing characters.	
8. Rinse the brushes.	8. Tell them that tidying up is an important part of SHODO.	Plastic bottles or replacements for it.

3.4 授業の実際

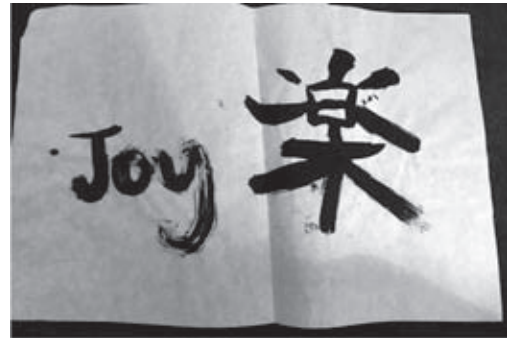
実質の授業時間は約 20 分であったため、大幅に内容を削った。最初に書道とは何かについての説明を行った。筆で実際に書いたものを見せると、興味を持ってくれたようだった。この時、「文字に気持ちを込めること」「集中して取り組むこと」の2点を強調して伝えた。



道具と手本を配布して、手本から好きな意味の漢字を選ぶように指示した。そして実際に筆と墨を用いて、半紙に漢字を書く活動を行った。慣れない感覚で戸惑いつつも、楽しんで書いていたようだった。

3.5 考察

書道という教材については子どもたちの興味・関心を惹きつける適切なものであったと思う。「書く」ことは彼らも普段から行っていることであるので、同じ「書く」ことに関する異なる文化に触れることは、普段の自分に還元しやすいというメリットがあったと考える。また、教具の準備もかなり配慮をしたため、自分としては最大限無駄を省き、視覚的な補助もいれるなど、伝わりやすい内容にはなっていたのではないかと思う。



反省としては、自分では様々な場面の英語をできるだけ想定して挑んだつもりであったが、まだまだ細かい指示についての英語が準備不足で、意図をうまく伝えることができなかった。また、指示などを大幅にカットして、最低限のことを伝えたところ、日本では考えられないであろう行動がいくつか見られ、文化の違いへの考慮も不十分であったことが分かった。例えば、半紙に文字を書く際、3回書くために配った3枚の半紙を重ねたまま書いてしまう生徒が多かった。墨汁と半紙を使ったことがない子にとっては、裏写りするということを想定できなかった、あるいは墨を吸収するために重ねたまま書くものと捉えたのかもしれない。さらに、今回の授業では目標として挙げていたことがほとんど達成できなかった。授業ごとに生徒が移動する仕組みの学校であったため、生徒たちは次の授業の時間をしきりに気にしており、多くの子は活動に集中できていなかったと考えられる。また、清書をしていないため、気持ちを込めるという経験をできた生徒もほとんどいなかったのではないかとと思われる。最後の片づけにおいても、全部を指示する間がなく、書いたものを捨てて教室移動してしまう生徒が大半を占め、自分としてはかなりのショックを受けた。今回の授業の目標を達成するためには、まず何よりも物理的・精神的余裕を保证することが大切だったのだと思う。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

今回の訪問がすべて中学校であったため、全校種において共通していない感想であるかもしれないが、ICT 機器が非常に充実していると感じた。授業において iPad を教師が使用していたり、プロジェクターやパソコンは常設してあったりした。日本では教師がなかなかそれらをうまく使いこなせないことや費用面などの理由からか、なかなか普及していない印象がある。それらを用いた授業を観察させていただき、それらを駆使した授業に対するイメージが新たに沸いてきた。

また、授業の環境という面では、Exploris 中学校は決して恵まれているとは言えない設備であったが、その環境で行える最大限の授業を行っていたところに着目した。廊下に座って授業を行っているなど、日本ではなかなか考えられない場面が多々あったが、それでも授業として

成り立っており、生徒も集中して取り組んでいた。このような場面を見て、確かに環境も重要な要素ではあるが、それが不可欠ということではないと気付かされた。

さらにこの中学校では、日本で学習指導要領にあたるものを大きくポスター状にして壁に貼っていた。日本では生徒に指導要領や年間指導計画を見せることはほとんど無いに等しい。教師用のものだという捉えからであろうが、児童生徒も自分がどのように学習を進めていくのか知っていると、目的意識を持つことができるので、非常に興味深い取り組みだと思った。

4.2 自分自身についての変容

私は日本語でも、初対面の人と会話をするのは苦手であった。それがさらに母国語ではない言語となると、自分が使える単語も限られてくるため、はじめの数日間は一歩積極的に会話をすることに対してかなり抵抗があった。しかし、様々な方と何度か会話をする中で、徐々に相手の言っていることが聞き取れるようになり、自分の英語が通じるという喜びを感じてからは、自分の中で努力して話題を見つけ話しかけるようになった。

何よりも自分にとって効果的だったのが、E.Carolina 大学の学生との意見交流の機会であった。それまでは、自分一人に対応をしたことがなく、積極的な人が一緒にいればその人に任せてしまう傾向があったが、ここでは小グループで2人の学生相手に1人に対応しなくては行けなくなった。この場面を楽しく過ごすことができたという経験によって、自分に更に自信が持てるようになった。

4.3 グローバルマインドに関する変容

母国語以外の言語のみでコミュニケーションをとるという機会に初めて触れ、多言語を学び、使えるようになることの大切さを改めて感じた。また、コミュニケーション能力とは、言語力と伝えようとする意欲の和であると気付かされた。いくら言語力に優れていても、意欲がなければ伝わらない。意欲があっても、やはり言語力がないと多くは伝えられない。両方が作用して初めてコミュニケーションが成り立つのだと実感した。これは単に国際交流の場面のみならず、日常の場面でも大いに当てはまることだと思う。日常生活においては、ネイティブの言語を用いているため、往々にして既に持っている言語力に頼りがちなのだと思う。本当に伝える意欲はあるのか。用いている言葉の選択は適切なのか。普段の自分のコミュニケーションについて考えさせられる機会となった。

今後の国際化の時代において、コミュニケーション能力は一層重要になってくるであろう。教育に携わる人間として、言語力のみならず、伝える姿勢、相手との差異を知り、認める態度などもきちんと伝えるべきものとして大切にしていきたい。

5 おわりに

この実地研究に参加し、様々な経験をすることができた。新たな視点、新たな考え、新たな気持ち…本当に多くのものを手に入れることができたと思う。この経験を、現在の自分に活かすのみならず、教職についてからも子どもたちに還元していきたい。

このような貴重な経験ができたのも、先生方をはじめとする GPSC に関わる多くの方々の多大なるご支援、ご協力があったからこそだと思います。この場をお借りして感謝を申し上げます。